

# 農作物生育・技術情報5号

令和1年(2019年)7月18日

日高農業改良普及センター日高西部支所  
JAびらとり JA門別町

## 1 水稲生育状況 (7月15日現在)

品種名	生育状況			遅速 日数
	項目	R1年	平 年	
ななつぼし	草丈	56.6cm	62.3cm	+1
	葉数	9.9葉	10.2葉	
	m <sup>2</sup> 茎数	687.6本	616.4本	
	幼形期	7/5	7/6	

★冷害危険期です。深水管理を行  
い低温に備えましょう！

【冷害危険期】前歴後10日間

(幼形期10日後から約10日間)

⇒ 水深15～20cm

(日中必ず止め水)

★ななつぼしでは7/24頃まで

### 技術対策

#### ○冷害危険期終了の落水

冷害危険期終了後(1株内で約8割が止葉抽出した状態)は直ちに落水し、中干しをして根に酸素を供給しましょう。

出穂直前まで水田内を歩行してもぬからない程度にします。

出穂を確認したら直ちに湛水状態に戻しましょう。

#### ○溝切り

溝切りは中干しの効果を高める他、出穂後の水管理を容易にします。

落水後、土が落ち着いたら20条～30条を目安に作溝し、集水溝を切って表面水の排水を促しましょう。

#### ○病害虫対策

日高管内では、7月12-13日にかけて新冠親和アマガス、14-15日にかけて門別アマガスで、いもち病発生の準好適条件になりました。日照時間が少なく、病気の発生が懸念されます。ほ場をよく観察し、適期防除に努めましょう。

## 2 主要野菜の生育状況

作物名	生育状況	技術対策
トマト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月定植：4～5段収穫中。</li> <li>・5月定植：1～2段収穫中。</li> <li>・6月定植：3～4段開花。</li> <li>・病害虫：灰色かび病、萎凋病、かいよう病、ハダニ類、芯腐れ果、花落ち、がく枯の発生が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ベツ内側の葉を中心に摘葉を行い風通しを良くする。</li> <li>・強日照が予想される場合は、しゃ光資材や二重カーテンを利用し、日焼け果等を防止する。</li> <li>・適切な土壤水分確保や肥培管理に努める。</li> </ul>
ハウス軟白ねぎ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3月定植作型収穫中。</li> <li>・ハモグリバエ類、タネバエ類が一部で多発している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タネバエ防除は土壤深2～3cmまで薬液が浸みるようにする。</li> <li>・害虫が多発した場合は収穫終了後、土壤処理や蒸し込み等を行う。</li> <li>・収穫、調整残さを整理する。</li> </ul>
アスパラガス (ハウス立茎)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・灰色かび病、斑点病、アザミウマ類の発生が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハウス周辺の除草を行う。</li> <li>・摘葉後の残さを整理する。</li> </ul>

※日高管内でネギアザミウマに対する合成ピレスロイドの抵抗性が確認されました。今後は合成ピレスロイド系薬剤の連用を避け、ローテーション防除を行いましょう。

### 3 畑 作

(1) 秋まき小麦

品質保持のため収穫開始時の子実水分は35%を上限とします。  
水分測定により収穫時期を判断しましょう。

\*赤かび病の多発したほ場は別刈とし、分けて乾燥調整作業を進めましょう。

(2) ばれいしょ

開花後は茎葉から塊茎へのデンプン等の養分転流量が増加する時期です。  
茎葉は病害に侵されやすくなるので疫病や軟腐病等の発生に注意が必要です。  
ほ場を良く観察し、発生状況に注意しながら予防防除に努めましょう。

【発生環境と防除例】

	疫 病	軟腐病
発生環境	気温：18～20℃ 多湿	気温：25～30℃ 多湿 <b>寝苦しい夜が続くと要注意</b>
未発生ほ場	グリーンペンコゼブ(水) フロンサイド(水) ダコニールエース	コサイド3000
発生ほ場	ホライズンドライフロアブル ランマンフロアブル	スターナ(水)

(3) 豆類

○大豆 ベと病の発生が上位葉に多い場合は防除しましょう。

○小豆 菌核病、灰色かび病の防除は開花始後7～10日目に1回目防除しましょう。

菌核病・灰色かび病防除例：スミレックス水和剤

(4) てんさい

○褐斑病：高温、多湿条件で発生しやすい。連作や前年発生した隣接畑では早期の発生や、多発生の恐れがあるため、定期的な防除を心がけましょう。

○ヨウトウガ、カメノコハムシ：食害を確認後、薬剤を茎葉処理しましょう。

\*てん菜栽培技術情報を参考に防除を実施してください

### 4. 牧草生育状況（7月15日現在）

作物名	生 育 状 況				適 要
	項目	R1年	平年	遅速日数	
牧草 (2番)	草丈	32.5cm	25.7cm	+3	生育はやや進んでいる
デントコーン	草丈 葉数	164.0cm 13.2葉	149.5cm 12.6葉	+3	生育はやや進んでいる

牧草の2番草は、穂がほとんど見られないため刈り取りは、1番草刈り後の日数で判断しましょう。①チモシー草地は50日②オーチャードグラス主体草地は45日経過したら、刈り取りを進めましょう。

3番草刈り取る草地は、2番収穫後の追肥が必要です。オーチャードグラスは、8月下旬の施肥で、分けつが促進され次年度以降の生産性が高まります。

### 5. 農薬の安全使用

◎農薬使用基準を遵守しましょう。

農薬のラベルを良く確認し、適用作物、使用量・濃度、使用時期、総使用回数、使用期限等の基準を必ず守りましょう。

◎農薬の飛散（ドリフト）に気をつけましょう。

水稻の防除作業が本格的に行われています。水田防除時には、隣接しているビニールハウスの入口、側面を閉め、農薬飛散防止 に努めましょう。